

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。会議では具体的なケアについて意見の統一を図っている。	玄関横の目につきやすい場所に法人とホームの理念が掲示されている。職員は理念を十分理解し、お互いに共有しながら具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民や周囲の畑で作業している人など顔を合わせると声を掛け合い交流している。花壇や畑の作業などで、地元のボランティアの方々の援助をいただいている。今後はホームの行事に積極的に参加してもらい更に入居者への理解を深めてもらえるよう関わっていきたい。	地域のボランティアや住民との交流を図り、散歩や買い物などで顔馴染みの関係を築いている。地域の方達が「気軽に立ち寄れる高齢者の住まい」になることを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の状態や状況を運営推進会議に出席している地区の役員や民生委員、地域のボランティアを通じて理解してもらうように報告をしている。広報誌を通じて地域に向けての活動は必要と感じているが実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果を踏まえ、現在の状況や取り組んでいる内容について報告し、意見を出してもらっている。防災や地域交流、事業所内の環境整備等サービスの向上に生かしている。	2ヶ月毎に運営推進会議が開催されており、地区社協会長、地区区長、地区相談役、地区民生委員、地域包括支援センター職員、家族などが集まり、取り組み状況や評価結果を報告し委員の意見をいただいている。いただいた意見等は運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営の方法や対応に不安のある時等、積極的に意見を求めるようにしている。	地域包括支援センターとは入居の打診や高齢者福祉についての情報交換をしている。市の介護保険課とは運営に関する事で相談をかけたたり情報交換をし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加、事業所内での勉強会や具体的な例を取り上げて共有認識をするようにしている。センサー等の設置などにより身体拘束の無いケアに取り組んでいる。併設する椿棟への自由な往来ができ入居者同士お茶のみの楽しみなどができるような環境を作りたい。	身体拘束の研修を受け、職員はその弊害を理解している。施錠は行なわれていない。また、日常的にも身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、事業所内での勉強会や具体的な例を取り上げて共有認識をするようにしている。日頃から入居者の体の変化に注意してケアにあたり虐待を見過ごさないように努めている。		

グループホーム川田の宿・柵棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や資料の配布などで制度について学んでいる。成年後見の必要なケースについては管理者・計画作成担当者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明するようにしている。特に入院時の対応や退所の要件、利用料金については詳しく説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時にコミュニケーションをとったり、電話や手紙等で意見を聞くように努めている。ご家族から出された意見は会議で報告し、ケアに反映させるようにしている。	家族がホームに来られた際に意見を求めたり、ホームから家族に請求書を送る際には生活の様子を連絡票に書き、写真も添えている。家族から意見や要望をいただくために事業所は面会時や意見箱以外にも、手紙や電話の折にもそれとなく声を掛けるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や個人面談等時間をとって意見を聞く機会を設けている。また日頃からコミュニケーションをとり意見を話しやすい環境を作っている。出された意見や提案については速やかに対応するよう努めていきたい。	職員から相談を受けたり意見を聞いている。職員一人ひとりの様子から必要と思われる場合には声をかけている。会議の際に職員の意見に耳を傾け、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因について気を配るようにしている。会議などで業務の見直しをするとともに、職員同士の人間関係にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われる外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じて受講の計画を立てている。ケアに生かすため、研修内容の報告の機会が必要と感じているが今年度は実施できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の連絡会で情報の交換を行う、研修に参加する等している。また法人内の他事業所との合同研修会に参加し交流している。		

グループホーム川田の宿・柘棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で生活状況の把握に努め、ご本人の不安や要望など聞くようにし、関係づくりに努めている。また会話の内容や態度の中からも希望や不安に思っていることを理解するよう努め、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や、サービスの利用状況、要望を聞くようにし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に状況を聴く中で、必要なサービスを勧める等している。事前面接や入居前に事業所見学などしてもらい徐々に関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に家事等したり、職員の相談にのってもらいながら日々生活している。また誕生日会や外出など、うれしい時、楽しいとき、時には悲しい時等一緒になって気持ちを共有しあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や手紙、電話連絡などで生活の様子など報告し、特に面会に来た際は一緒にお茶を飲んだりしながら利用者と家族の間に入って関係を築けるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、ボランティアなどの顔なじみの方々と話をしたり、昔のなじみの場所の話や仕事の話をする中で、記憶が途切れないよう支援している。毎年の誕生日会や行事には家族や友人などにも参加してもらい関係継続を図っていききたい。	入居者は職員や家族の支援を受けながら美容室や喫茶店などに出かけている。ホームは入居者の馴染みの場所や人との関係が継続出来るよう積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者の人間関係を把握し、必要に応じて職員が間に入り入居者同士のつながりを作ってレクや作業に参加している。また気の合う入居者同士の声の掛け合いなど支えあって生活している。		

グループホーム川田の宿・柘棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方への直接的な支援の機会はなかったが、そのような機会があれば支援したいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの入居者の言動、態度などを大切に受け止め、ご本人の望んでいることを把握するよう努めている。また会議の場で意見を出し合い、本人主体の支援を心がけている。	入居者・家族の意見を聞いたり、日頃の行動の中から想いや意向を汲み取り推察し、意向に沿った本人本位の支援に心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やご本人から話を聞くだけでなく、入居後も日々のかかわりや会話のなかからも聞き取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変わっていく暮らしの現状を記録や申し送りの中から把握、共有するようにしている。また身体の状態や周囲の環境が精神面に大きく影響することを理解し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の現状にあった介護計画の作成をするよう努めているが、作成が遅れてしまっている。しかしご本人や家族に、日ごろから要望など聞くよう努め、会議などでは現状にあった対応を検討している。	職員による各入居者の担当制をとっており、入居者・家族の意向を聞きながらカンファレンスを行い、介護計画を作成している。定期的に見直しもしており、状況が変化した場合には随時見直し、現状に即したものに作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要に応じて記録用紙を見直し、日々の入居者の状態や状況、1日の流れ等を記録し情報の共有を図りケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時の受診、買い物、外出等の送迎等、一人ひとりにあわせ柔軟に対応している。		

グループホーム川田の宿・棟棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地区の役員の方、ボランティアなど地域の方の積極的な関わりが、施設や周辺の環境改善や入居者の生活の質の向上に繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や緊急時の相談・対応など連携を密にした関係を築いており、入居者・グループホームへの理解も深めてもらっている。	原則的には本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。急変の際往診してくれる協力医がいるので専門医以外は協力医の診察も受けている。付添いは家族が行っているが職員が付添うこともある。訪問看護師が週に1回来訪しておりアドバイス等を頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日ごとの健康管理や医療面での相談・助言・対応を行なってもらっている。また入居者の状態に応じ必要な場合は定期的な訪問以外でも関わりを持ってもらっている。職場内に看護職の配置を望む声もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関にご本人の状態、様子、グループホームでの契約内容について事前に説明し、家族とも相談しながら早期退院できるよう医療機関と情報交換・相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院や体調の急激な変化のある入居者については家族等と重度化終末期の対応について話し合いをしている。また協力医とも話をし対応をお願いしている。職員間でも個々の職員が何ができるのか、何をすべきかを会議で話し合い共有していきたい。	入所契約時に取り交わす重要事項説明書の中で「重度化・終末期対応指針」を家族に説明し了承を得ている。職員は情報を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が救急救命講習の受講をしている。内部研修も行なっているが、救急救命講習以外の急変時の対応について、誰もが迅速な連絡、的確な対応ができるよう更に努めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難誘導通報訓練を実施しており、職員にも入居者の避難誘導が身につけてきている。地域の役員の方も参加した防災訓練の実施により地域の方との協力体制も構築しつつあるが、近隣住民との協力体制の構築も進めていきたい。	年2回、近隣の2地区の運営推進委員の協力や消防署・消防団の指導を得て訓練が行われている。避難訓練と消火器を使った消火訓練を行い、緊急連絡網の訓練も行われている。近隣2地区との災害に関わる協定も結ばれており、非常災害に備えた食料品等の備蓄もある。	

グループホーム川田の宿・柵棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度は目標達成計画にもあけ、重点的に日常の言葉かけや対応について入居者に配慮し、一人ひとりに合った対応や言葉かけをするよう取り組んでいる。排泄に関わるケアでは更に配慮した対応に努めていきたい。	運営規定や重要事項説明書に守秘義務、人権の尊重等についての記載があり、入居者・家族等に説明がされている。昨年度11月に作成した目標達成計画により具体的に取り組んでいる。センター方式を通していろいろな視点から入居者の気持ちを考えたり、職員自らが触れられたくないことについて話し合うなど実践につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度自己決定ができるよう工夫して声がけをし、ご本人の希望に沿うように努めている。時間をかけ入居者の言葉を聴き、対応するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に沿い、その人のペースにあわせ生活のリズムを作り生活してもらっている。買い物や外出、散歩なども一人ひとりの希望を聴き対応するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物に同行してもらい衣類を選んだり、美容室へ行き身だしなみにも関心を持ってもらっている。また職員からの声がけで身だしなみに対する喜びを感じてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けに関わってもらったり、今日の献立の話をするなどで食事に対する楽しみ等を共有しているが、特定の入居者に偏っているところがある。全ての入居者が可能な限り関わられるよう更なる個別の関わりが必要と感じている。	食事の用意や後片づけは各入居者が出来る範囲で参加している。職員と入居者が一緒に食卓を囲み、ゆっくりとした入居者のペースで食事を楽しんでいる。やわらかく煮たり、刻みにしたり、食べやすいように工夫もされている。食事も美味しく笑顔が絶えない和やかな時間であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の側と一緒に食事を取ることで食事量の確認・記録をし把握している。特に支援の必要な方へは、個々の状態の把握や、食事メニューの変更、食事がとれない時には補助食品などで補っている。水分量は記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の状態に応じ口腔衛生介助・声がけをしている。声がけをしても口腔衛生をしてもらえない入居者に対する対応に苦慮している。		

グループホーム川田の宿・棟棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ちよくトイレにて排泄ができるよう、入居者の様子や言動に注意を払い誘導している。日中はトイレ、夜間はポータブル使用と、個々の状態に合わせて対応している。	排泄チェック表を利用し個々に沿った支援をしている。職員は排泄パターンを把握し、その日の状態を確認し合いながらトイレで出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排便ができるよう水分摂取と散歩や体操などの運動を実施している。処方薬のある方については排便の状態を見て薬の調節を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やご本人の希望を確認しながら入浴をしてもらっている。夏場や外出後、発汗の多いとき等も入浴できるよう配慮している。仲の良い入居者同士で入浴することもあり、楽しんで入浴できるよう配慮している。	本人本位に行っている。入浴を好まない入居者には気持ちを押し量り言葉掛けなどを工夫しながら本人のタイミングに合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のその日のリズムに合わせて休息をとっている。居室だけでなく、リビングソファや和室でいつでも休めるようしている。夜間落ち着かない入居者とは和室と一緒に寝ることで安心して休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状をすぐ確認できるようファイルし、活用している。服薬時はチェック表を利用し確認することで飲み忘れなど防止している。また薬が変わったときは様子観察し、必要に応じて医師に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事、作業等、ご本人の能力に応じて関わってもらっている。またボランティアの来所、買い物や希望外出、日々のレクリエーション、デッキでのお茶飲みや散歩等の楽しく過ごせる機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に散歩やドライブ、買い物同行などご本人の希望を聞き外出の機会を作っているが、買い物同行等は特定の入居者に偏っている。他入居者も同行できるよう努めていきたい。希望を聞き希望外出を実施している。ご家族でも積極的に外出に連れ出してくれる方もいる。	入居者は地域のボランティアや家族の協力を得て散歩や外出に出かけている。本人の希望する場所や買い物に同行するなど一人ひとりに沿った外出支援を行っている。天候の良い時には外のテラスでくつろぎ外気浴を楽しんでいる。	

グループホーム川田の宿・柵棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行してもらい自分の好きなものを選んで買ったりしている。また必要なものやご本人が欲しいといったものはすぐ買えるように支援しているが個人でお金を所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に支援していない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある手芸品や張り絵を入居者と一緒に作成し飾ったり、庭や散歩などで採ってきた花を花瓶に飾ったりして、入居者共通の話題にしたりすることで、心地よい空間作りをしている。	共有スペースは広く、それぞれ好きな所で過ごせるようになっている。食堂の横にある畳の部屋には大きな炬燵があり、廊下には一休みできる三人がけの木造の作り付けの椅子がある。電磁調理器を使うなど安全面や環境面にも配慮している。飾られた花や入居者の作品を見ていると自然に心が安らいでくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチ、和室それぞれに入居者の皆さんの落ち着く場所が確保されている。食事の席の配置なども必要に応じて変え、快適に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものを居室に用意していただいたり、自分の作った作品や写真、散歩で採ってきた花を飾るなどし快適に過ごせるよう配慮している。	ベッド、いす、テレビ等、一人ひとりが使い慣れた馴染みの物が持ち込まれている。お仏壇や写真も飾られ、入居者の人生の軌跡を窺うことができる。ベッドの方が殆どだが、床の上に畳を敷き更に布団を敷いた和式の居室もあり、入居者の居心地の良い居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやベンチなどの活用により入居者の能力を活かすことができるよう配慮されている。		